イノベーションと社会課題解決の歴史

「nからはじまる未来創造」をスローガン（合言葉）に、創業時から変わらぬ価値観を大切に、「一歩先ゆくエンジニアリングから、社会基盤をアップデートする。」をミッションに掲げ、お客様と社会が抱える課題の解決に貢献する技術開発と製品化を追求しています。

創業 ▶▶▶ 1970年代 ▶▶▶

戦後の復興と建設機械分野へ進出

創業当時は、ショベルやスコップなどの製造販売を行っていましたが、1951年にウインチ、コンクリートミキサなどの機械分野へ進出しました。その後、建設の合理化に向けて、1956年にバッチャープラント、1958年にアスファルトプラントといった建設機械の生産を開始しました。


第1号ショベルを生産（1920年）


ウインチなどの機械分野へ進出（1951年）


アスファルトプラント1号機を生産（1958年）

機械の大型化と公害防止ニーズの高まり

道路建設とともにアスファルトプラントの大型化が進む中、環境対策へのニーズが高まりました。海外からの技術導入などを進めることで公害対策、自動化などに対応した製品を提供してきました。


アスファルトプラント240トン/hを開発（1972年、現在でも高評価を獲得）


リサイクルプラントを開発（1977年）


公害対策アスファルトプラントを開発（1970年）


コンパクトコンクリートプラントを開発（1979年）

1990年代 ▶▶▶ 2010年代 ▶▶▶ 2030年ビジョン ▶▶▶

震災対応ニーズの高まりと環境分野への進出

1995年に阪神・淡路大震災が発生し、災害対応製品や高品質なコンクリート製造へのニーズが急速に拡大。また、環境事業へも進出しました。


缶ビン選別圧縮機「リサイクル4」（1998年）


WELLターボバーナを開発（2005年）


DASH-200Nミキサを開発（2007年）


ダブルホットビンプラントを開発（2008年）


省スペース対応ユーロタイプアスファルトプラントを開発（2009年）

海外市場の開拓に加え、コア技術を活用した高付加価値分野を強化

2011年に山推楚天工程機械有限公司の工場が稼働。海外での事業展開を加速するとともに、KLEEMANN社との協業や環境製品の強化を推進しました。


新型アスファルトプラントValue Packシリーズを開発（2016年）


自走式破砕機KLEEMANN取り扱い開始（2015年）


BP操作盤Cyber Advanceを開発（2018年）


自走式コンベヤTrackstack取り扱い開始（2018年）


震災復興用プラントを納入（2013年）


リサイクル合材生成MBDシリーズを開発（2014年）

新中期経営計画と2030年ビジョンの実現に向けて

脱炭素社会の実現に向けた新たな投資や開発に加え、AIや遠隔技術を活用した自動化・省人化などの技術革新に向けた製品開発を加速していきます。

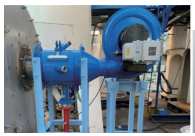
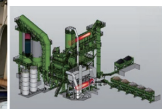


画像AI認識選別システムを開発（2022年）


国内初のアスファルト合材の遠隔出荷に成功（2023年）



水素専焼でのアスファルト混合物の製造及び試験施工を実施（2023年）



世界初となるアンモニア変換の水素を利用した水素バーナ対応型アスファルトプラントの開発に着手（2022年）

創業の精神を受け継ぎ、社会インフラの基盤づくりに貢献

大型化・高度化とともに、環境負荷低減に取り組む

環境分野を拡大し、グローバルに事業を展開

コア技術の革新と海外展開で、新たな価値を創出

脱炭素・DXを推進し、持続可能な社会の実現に貢献

100年を超える技術の蓄積と挑戦の歴史を力に、これからも社会とともに未来を創造していきます。